



— 発 行 者 —
 福島県公立学校退職校長会
 福島支部長 鈴木昭雄

— 編集広報部 —
 — 題 字 —
 第125号 高橋 藤園

忘れられない味

福島県公立学校退職校長会
 福島支部長 鈴木昭雄

私の教職員人生は、南会津郡伊南村(現南会津町)でスタートし、四年間過ごしたが、今でも忘れられない味がある。

● 山菜編一「野蒜」

四月中旬ごろ、家庭訪問があり、どの家庭でも茶菓子類などのほかに、簡単な旬のものを出しにいただいた。手のひらに砂糖が乗った大きな梅漬けを頂いたあとで、「先生、これ食べでみやれ、さつき家の近くから採ってきたもので、この味噌を付けて食べでみやれ」と促された。見ると、細い青ネギに小さなタマネギが付いた形のものである。名前を尋ねると「ノビル」と教えて頂いた。味噌をつけて食べてみると、シャキッとしていて、辛みがある味であった。伊南村を離れてからは、なかなか野蒜に出会えていないが、代わりにエシャロットに味噌をつけて食べることがあるが、あの土臭さのある野蒜の味は、今で

も忘れられない。

● 山菜編二「エラ」

伊南村では、旅館に下宿していたが、その主人は、春には深山に入り、いろんな山菜を採取して、それを奥さんが宿泊客に料理として提供しており、下宿人の私も、旬のものを美味しく味わうことができた。初めて味わう山菜類では、コゴミ、たらの芽、コシアブラ、シドギなどがあつた。その殆どは、伊南村を離れてからも味わえたが、ほとんど味わうことができないのが、「エラ」である。他地区では、別名「アイコ」とも言うそうである。

日曜日の早朝など、保護者の方に連れられ深山の沢に入り、何度か「エラ」採りを経験したが、葉っぱは、シソの葉に似ており、茎に刺毛があり、素手で採るには痛く、軍手などで採る必要があつた。おひたしや炒めても美味しい

が、私の好きなのは味噌汁で、味に癖がなく、シャキシャキしていて、ややぬめりがあり、豆腐などと一緒にとすると、ナメコ汁の山菜版とも言える。

● キノコ編「シシタケ」

秋になると、キノコ採りの名人でもある下宿先の主人は、山に入り、いろいろなキノコを採取してきて、それらも奥さんがいろんな形で料理し、食事時に提供してくれた。

天然の「松茸」や白菜二つ分ほどもある「舞茸」も、いろいろな料理で初めて味わつた。さらには、味噌汁、煮物そして大根おろしと一緒に美味しく味わつた「さわもだし」というキノコ類も、初めて味わつた一つである。

しかし、なんと言つても一番忘れられない、伊南村を出てからは味わえないキノコが、「シシタケ(獅子茸)」である。笠がイノシシの鼻に似ていることから、そう呼ばれているそうである。採ってきたものを、黒くなるまで天日干しする。それが入つたものが「シシタ

ケの炊き込みご飯」である。その味は、絶品で、なかなか例えようもないが、少し醤油のような香ばしさがあって、味もよく、マツタケよりも珍重されると言われている。

福島市で育つた私にとつては、奥会津の伊南村に赴任したおかげで、他地区では、なかなか味わえない食材、料理に出会うことができ、感謝している。忘れられない味として、いくつか記してきたが、その思い出の傍らには、当然、忘れられない多くの保護者、地域の方々、同僚の方々、下宿の主人と女将、そして、子どもたちがいる。



「旧伊南村役場より、伊南川、奥に尾白山を望む」
 ～旧伊南村在住の還暦を迎えた教え子提供～

これまでの実践とICTとの ベストミックスを

福島地区小学校長会 会長 嶋原 理
(福島市立福島第一小学校)

昨年の五月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが五類に移行したことにより、学校は日常の教育活動を取り戻しつつあります。今年度は、四月八日に多くの小学校で、保護者や地域の来賓の方をお招きして入学式が挙行されました。

五月には、運動会、小学校鼓笛パレードがコロナ前とほぼ同じ形で実施され、頑張る子どもたちの姿に多くの声援をいただきました。「感染のリスクが比較的高い学習活動」として制限されてきた「児童生徒が対面形式となるグループワーク」や「合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の演奏」「児童生徒がグループで行う調理実習」等の学習活動も、コロナ前と同じように実施できるようになりました。「オンスの経験は一トンの理論に勝る」という言葉があるように、子どもが実際に手を動かす、本物に触れ、人と関わって学ぶことこそ小学校教育の本質であり、そうした学びの姿を

取り戻すことができたのは、校長として何よりも嬉しく感じています。

しかし、新型コロナウイルス感染症は無くなってしまったわけではなく、現在も「手洗い」「常時換気」等の基本的な感染予防対策は継続されています。実際に罹患して欠席する子どもや教職員もおり、そうした場合には、これまでの知見を生かし、感染予防対策を強化することで集団感染を防ぐ対策をとるとともに、欠席している子どもへの授業のオンライン配信などの学習支援を保護者と連携して行っています。他の感染症も同じですが、感染が起こるのは防ぎようがないことなので、いかにして集団感染を防ぐか、欠席している子の学習支援をどうするかに対応のポイントだと考えています。

コロナ禍で一気に進んだ、国の「GIGAスクール構想」に基づく一人一台のタブレット端末を活用したICT教育は、学



校の姿を大きく変えています。子どもたちがタブレット端末を使って調べ学習を行ったり、自分の考えをタブレットに入力して友達と共有したりといった学習活動が、日常の授業の中で当たり前のように行われています。さらに、子どもの学習状況によつて出題内容が個別化されていくAIドリルや、図表等を動的に提示することが可能なデジタル教科書の導入など、ソフトでの改革も急速に進められています。校長としては、教育の未来を見据えつつ、これまでの実践とICTとをどのように融合させていくかということに頭を悩ませる毎日です。

今後におきましても、福島県公立学校退職校長会福島支部の皆様には、ご指導・ご支援をお願い申し上げます。

令和六年度(第六十回) 支部総会開催

令和六年度福島支部総会は、五月二十六日(日)福島グリーンパレスにおいてご来賓の方々と四十五名の会員が出席し開催されました。

引き続き午後からの懇親会は、会員三十六名が出席し、喜寿の佐藤裕兄様のご乾杯のご発声で開催されました。五年ぶりの開催となり、和やかな歓談で会員相互の親交を深め終了しました。

総会は、物故会員への黙祷から始まり、支部歌「信夫望郷の歌」を斉唱しました。鈴木昭雄支部長からは「五年ぶりにコロナ禍前での形で総会・懇親会を開催することが出来たこと」等の挨拶がありました。長寿記念品贈呈では、五名の米寿、十二名の喜寿会員が紹介され五名の喜寿出席者に記念品が贈呈され、代表して大竹明様が謝辞を述べられました。その後、川俣町教育委員会教育長 佐久間裕晴様から祝辞をいただきました。

議長選出では根本眞理事が選出され、協議に入りました。

令和六年度県評議員会の概要が報告され、令和五年度事業報告・決算報告、令和六年度事業計画案・会計予算案が提案され原案通り承認されました。今年度は役員改選の年ではないので役員の変更はありません。最後に総会に出席した二名の新入会員が紹介され総会は閉会しました。



川俣町教育委員会教育長 佐久間裕晴様



ふれあい広場

— 方部会員紹介 —

アサギマダラを追って

蓬萊 小柴 治紀

退職して十年、何かと健康寿命も気になりだし、近くの田んぼや林野を歩いています。写真家で切り絵作家の今森光彦氏は「里山は感性の栄養」と言うように、身近な所にも生命があり、驚きがあり、感動があり、新たな発見があります。

五年前に知人の紹介で、アサギマダラのマーキング調査に参加させていただきました。日本各地で標識された個体をインターネットで情報共有し、移動調査を行うものです。最近、テレビや新聞でも報道され、広く知られてきたアサギマダラ、渡り鳥のように日本列島を北へ南へ移動して生活する謎の多い蝶です。東北では六、八月にかけて標高1000m以上の涼しい所に飛来してくるため、平地で見ることができません。登山をされる方の中には、夏山で大群に出会った幸運な方もいるかも知れません。特に、秋に南下する個体は数が増えるため、調査もしやすくなり参加する人も多くいます。中には一緒に南へ移動していく人もいます。



大群に出会うとこんなことも

自分が標識したアサギマダラと、九州や沖縄で是非再会したいものだと焦っている今日この頃です。

ゴルフの楽しみ

杉妻 渡邊 浩人

ゴルフを始めたのは退職一年前。妻とは、なかなか共通の趣味を持っていないでおりましたが、これははまりました。

人間観察が好きで私たちが夫婦でしたので、練習場やコースで出会う(目撃する)人たちの関係を想像し合うのが、今では密かな楽しみになっています。家族か、友人か、接待・接客か。夫婦関係かどうかを分かれ想像(妄想)が無限に広がります。妻の韓流ドラマ情報が参考になる場合もあり、多様性の理解・受容を意識させられることも、なお最近になって、全くの他人が同じカーに乗ってプレイすることもあるようになりました。体力維持や技術の向上に加えてゴルフって、こんな楽しみ方もあるの？ 想像と対話、認知症予防効果をも期待しつつ……

コース予約のたびにうれしそうにウェアを購入する妻、スコア90前半に入ったら、あこがれのスコッティ・キャメロン(バター)を購入するのが目下のささやかな私の夢であります。

新しい生活

中部 高澤 朱

この度退職校長会福島支部に入会させていただきました。最終勤務地が、二本松市立旭小でしたので初めは安達支部にお世話になっておりました。

退職後も学校の仕事が好きとありますが、午前中だけです。仕事を続けています。現在は週に四日ほど福島二小で理科を担当しています。

一人暮らしなので学校に行くことで生活リズムが整い、授業も楽しみとなっているので有難いと思っております。これからも学校のお役に立てればと思います。

清水 A 福地 裕之

定年の引上げに伴い、今年度は特例任用の校長として福島市立吾妻中学校に勤務しています。退職はしていませんし、昨年度までの生活リズムと変わりがありませんので、実感がわいていない状況です。しかし、県校長会等の役割が少なくなったことから、学校にいる時間が増えていきます。子どもたち、先生方とともに時間を過ごし、学校経営に果たれることに幸せを感じています。本来校長としてあるべき

特別区 逸見 健二

福島市教育委員会教育研修課の相談員として、フルタイム会計年度任用職員として勤務しております。通算七年目の教育委員会での勤務となります。主な業務は、就学に向けての教育相談、特別支援教育に係る研修などです。また、特別支援教育指導員として、学校を訪問して、気力と体力が続く限りは、勤務を続けて参りたいと思います。

支部会員の皆様方には、今後、大変お世話になります。どうぞよろしくお願ひいたします。

飯坂 A 菅藤 文彦

四月から蓬萊学習センターの分館に勤務し、高齢者学級を担当させていただきます。参加者の講座への満足度が高まるようにと、微力ながら奮闘しています。いくつになっても外に出て学習するとても意欲的な受講生の姿に感動する日々です。このように歳を重ねていけたら素敵だと思えます。人生百年時代を見据え、より多くの地域の方々が「参加してみよう」と思えるように、一つ一つの講座の充実に努めていきたいと思えます。

県退職校長会 二本松大会

ご協力に感謝

福島県公立学校退職校長会第五十八回県大会が、六月十二日(水)二本松市の二本松御苑において行われました。県内各地から約二百名、当支部からは三十名近くが参加しました。お忙しいなか、当日ご参加いただきました方部理事の皆様には、心より御礼申し上げます。

午前中、二本松市出身の日本画家 大山忠作氏の長女、大山采子氏を講師として、演題「生きることとは描くこと、生きることは演じること」の講演をいただきました。ご家族ならではのエピソードを交えた大山家のお話を楽しく伺うことができました。

午後は石川、耶麻、いわき三支部の体験発表。退職後も自らの個性や特性を発揮して地元への教育や文化の振興に寄与している会員の活躍に刺激を受け、たくさん元気をいただきました。大会の余韻に浸りながら、心地よく帰路につくことができました。大会を主管された安達支部の皆様、有益なひとときをご提供いただきありがとうございます。

